

教育維新の会で『杉並区の中学校に視察に行こう』など提案していたのは橋下さんですよ(笑)」  
橋下人気で井上氏が圧勝。「選挙は選挙。仕方がありません」と、さばさばした神谷氏だったが、さすがに仰天したのは、TV番組『たかじんのそこまで言って委員会』を見た時だ。  
「俳優の津川雅彦さんが『日本人の美德を大事にしよう』と德育などについて話されたのです。すると、出演していた橋下さんが、「僕もやりたいと思つてたのに、官僚がやらせないんですよ」と言い出した(笑)。德育はわかりにくいからやりたくないと言つたのは、橋下さんですよ!」  
とは言うものの、神谷氏は「橋下さんのことは批判したくなかった」と言う。  
「停滞した政治に、橋下さんの突破力は必要です。ただ、橋下さんは理念が感じられず、そんな彼に大阪の政治家がなびく現状に強い危機を感じたんです。橋下さんは今でも弁護士。その時その時のクライアント

のために法廷で勝たなければならぬ。以前の考え方と矛盾していくとも、勝ち続けることが評価となる。政治という法廷で、国民という陪審員にどううまくプレゼンするかが橋下さんには大切なことです。橋下さんがあちこちで野を焼くなら、僕らの役割は焼き烟に種を植えて歩くことだと気づきました」

## サッチャーリー改革失敗の一の舞い

すでに橋下氏に関わった人たちは気づき始めていた。性急な教育改革は、「制度を変えた」という実績をつくり、次の選挙に利用するためだ、と。

橋下氏は大阪府の学力テストの成績が、全国で四十五位だったことに激怒し、「クソ教育委員会!」と罵った。橋下氏対教育委員会といふ団式が、観客である大衆には拍手喝采となつた。だが、ある教師が話す。「大学入試センター試験で大阪は全国的にも高い平均点を出しています。ところ

事を求めて流れてくる家庭が増えている。子供にかまう余裕がなく、放り出された子供たちが基礎学力を養えないでいる。改革するなら、有名大学合格者を増やすという目立つ改革ではなく、教育の底上げという地道な改革の方が必要だとうとする。」  
維新の会は、三年連続で定員割れし、改善の見込みがない府立高校を統廃合の対象にしたり、教職員の約五%に最低評価をつけて二年連続最低なら、免職対象とする意向だ。

「競争を強化すると、たくさんの躊躇を抱えた子供は無氣力になる。そうなると、子供たちは暴力で憂さを晴らす。窓ガラスを割り、イメージをして恐喝をする。」

冒頭で紹介した小河勝氏は、競争をベースにした教育には反対する。「イギリスのサッチャーリー改革を模倣して、市場原理を導入したのが、アメリカのブッシュ大統領による教育

の改革です。すでにどちらも破綻して歪みが出た制度を、なぜ今やるのか。たとえば、一人の不登校の子供を立ち直らせるにあらはすだと小河氏は見ます。前年の担任など何人の大人の目が必要です。僕は荒れた中学を担当していましたが、一人の教師を十人の生徒が囲んで、目潰しをしたり、ナイフで突っこしてくる。そんな時に、他の先生たちが『何してんの!』と、みんなで食い止めてきた。それが、必ず5%の教師を最低と評価するシステムが導入される」と、みんな面倒を避けようとしています。

「競争を強化すると、たくさんの躊躇を抱えた子供は無氣力になる。そうなると、子供たちは暴力で憂さを晴らす。窓ガラスを割り、イメージをして恐喝をする。」  
本当の教育の活力とは、子供たちが勉強をわかる、できる、そして自信を持ち、喜びをもって感動する。この内面のドラマが教育的活力の源泉です。これは現場の経験者にしかわらないことなのです」

福井県では二年前まで教員の評価はなかつた。福井が学力テストで全国トップだったのは、それと関係があるはずだと小河氏は見る。

一方、大阪に目を向けると、ある小学校では、子供たちが教室にバリケードを築き、担任は精神を病んで休職。校長は転勤をひたすら願い、管理職を目指す教師たちは、評価を気にするヒラメ教師になつて現実がある。改革すべきは、こそ野での基礎学習のはず。荒れる子供たちと向かい合つてきた小河氏は、静かにこう語るのだ。

「競争を強化すると、たくさんの躊躇を抱えた子供は無氣力になる。そうなると、子供たちは暴力で憂さを晴らす。窓ガラスを割り、イメージをして恐喝をする。」  
本当の教育の活力とは、子供たちが勉強をわかる、できる、そして自信を持ち、喜びをもって感動する。この内面のドラマが教育的活力の源泉です。これは現場の経験者にしかわらないことなのです」

福井県では二年前まで教員の評価はなかつた。福井が学力テストで全国トップだったのは、それと関係があるはずだと小河氏は見る。